

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年5月12日）

本日は、野田村の観光協会からの要請をいただき、「ベアレン・ビアフェスタ 2013 in 野田村」のお手伝いに、毎月の定期便とは別に臨時便を出すことになりました。心配された天気も快晴でよい一日になる予感がしました。当日参加したのは、一般市民 8 名、学生 8 名、教員 1 名の全部で 17 名でした。遅刻者もなく、無事定刻通りに弘前大学を出発しました。

移動中の車中では、初参加者もいたので、「チーム・オール・弘前」の設立経緯や今までの活動内容、そして活動の意義などに関して、事務局教員からの説明がありました。説明の後には、参加者からの質問や意見交換を行いました。中には、現在の仮設住宅の状況や復興計画の進行状況などについて、詳細な質問なども多く、参加者の皆さんが野田村の復興のことを自分の身に起きた問題のように捉えてくれていることをうれしく思いました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影



虎次郎の前で打ち合わせ

野田村にはいつも通り、11 時少し前に到着しました。到着してすぐに会場の野田村愛宕神社の参道に移動しました。ビアフェスタ会場にはすでに、盛岡からイベントの関係者などが来ていて野田村ではなかなか見られない賑やかさでした。野田村観光協会からの要請では、イベントでのキッズコーナーの運営を頼まれました。そこで、チーム北リアスと協力し、現地事務所にあった「トランポリン、虎次郎」を設置し、子供たちに無料で開放しました。

トランポリンの受付と安全管理のために、子供たちと一緒にトランポリンの中に入り、子供たちと一緒に飛び跳ねながら事故の無いように子供たちを見守っていました。中には子供以上にはしゃいでいた学生もいました。

また、現地では野田村でいつもお世話になっている米田さんから、急きょ店舗のお手伝いを頼まれました。そこで、学生事務局の丹藤君を中心に、市民の方数名と仮設店舗のお

手伝いをさせていただきました。米田さんのお店では、おなじみの豆腐田楽が飛ぶように売っていました。後から分かったのですが、当日の人出は800名を超えていたようです。3年近く野田村に通っていますが、そんなに多くの方が集まるのは初めてでした。

会場では、野田村を様々な形で支援している、盛岡本社の株式会社ベアレン醸造所の自慢のビールが多く並んでいました。中でも野田村の山ぶどうを使った「山ぶどうラードラー」は本日限りの商品で、ここでしか飲めないものだそうです。味わいたい気持ちは山々でしたが、事務局だったのでぐっと我慢しました。来年は事務局ではなく一般参加者として参加したいと思います。



会場の様子

仮設店舗のお手伝い

昼食の後、希望者を募り、野田村の被災現場を見学しました。海岸沿いの防波堤や防風林や、国道から見える野田村中心地区の被災現場などを見学しました。また、下安家地区まで足を延ばして、サケの養殖場や港の被災現場などを見て回りました。下安家の見学は初めてだったので参加者にとって意義のある時間になったと思います。

さて、ビアフェスタ会場の方ですが、キッズコーナーでは長い行列ができ、大盛況でした。トランポリンの寅次郎からは汗だくになった子供たちが笑顔で降りてきていました。また、販売をお手伝いした米田さんの仮設店舗では、学生や一般市民の元気一杯の掛け声もあって、用意された豆腐が完売となり、急きょ別の店で準備していただいたカレーなどを販売していました。野田村の豆腐やホタテカレー、焼きホタテ、シイタケなどは本当に美味しかったです。

帰りのバスの感想タイムでは、「野田村でこんなに人がいっぱいいるのは初めて見た。」「おなかも心もいっぱいでした。ありがとうございました」「お蔭さまで素敵な一日でした。」などの声が多く、被災地域の見学に関しても大変好評でした。事務局としては、おいしいビールを堪能できなかったことだけが心残りでした。

(担当：李永俊)